

小売業の不正対策を学ぶ

ハイブリッドセミナーを開催

J E A S

工業会 日本万引防止システム協会（東京都新宿区、稲本義範会長、以下、JEAS）は、5月8日に「公認不正検査士プロフェッショナル対談〜小売業会計不正検査報告書と監査室長事件簿から対策を考える〜」と題した小売業における不正対策をテーマに据えたハ

イブリッドセミナーを高千穂交易で開催した。

小売業ではセルフレジにおける万引き被害とともに、内部不正も問題視されている。今回のセミナーはJEAS会員に加え、関係団体、小売業の監査室やロス対策部門の担当者向けに実施された。プログラムとして、公認不正検査士と東京不正検査研究会、企業の不正検査報告書から学ぶ点、本紙で連載した「夫婦桜 窪監査室長事件簿」から学ぶ点や不正対策機器に

関する内容などが説明された。

不正を考える際には、その要因となる動機（プレッシャー）、機会（できってしまう環境）、正当化（自分への言い訳）といったトライアングルを理解する必要がある。

実際の事例を通じて、棚卸差異、内部通報、内部監査が早期発見の起点になることに加え、防犯カメラが従業員を守る証跡としても活用できる点を紹介。調査費用は高額となるため、予防への投

資が重要と提起した。

そして、手荷物検査システム、セキュリティペーパー、情報漏洩リスクを抑制するためのPC紛失・盗難対策といった具体策を解説した。

不正対策は悪い人を探すためではなく、正しく働く従業員と組織を守る仕組みとして機能させることが求められる。その仕組みを適切に運用する上で、経営トップの関与、仕組み、運用、風土の組み合わせが重要となる。